

5. 試験材の等級別本数

乾燥処理を終えた試験材は、枠組壁工法構造用製材の日本農林規格により等級別格付けを行った。本事業では同規格による甲種枠組材の国産材としての品質性能を解明することを狙いにおいているため、試験材を甲種枠組材の品質基準により特級、1級、2級、3級に格付けした。また等級格付けは、全材長にわたって目視による品質調査により判定したが、格付け作業自体は、自社もしくはツーバイフォー住宅メーカーのグレーダに依頼して実施した。

第6表は樹種別試験材の等級別本数を示したもので、スギ、ヒノキ、カラマツともに等級別本数の出現率は特級、2級、1級、3級の順に高くなるが、格外材も若干認められた。なお特級から1級、1級から2級への等級落ちは、主に材縁部、材の中央部における最大節径あるいは材幅の集中節が基準値を超えたものが多く、2級から3級への等級落ちは節の次ぎに平均年輪幅が基準値以上の材である。

第6表 試験材の等級別本数（全材長で品質判定）

樹材種 等級	スギ		ヒノキ		カラマツ	
	204材	206材	204材	206材	204材	206材
特級	326 (56.3)	144 (64.0)	127 (45.0)	53 (48.2)	7 (17.5)	6 (30.0)
1級	94 (14.8)	23 (10.2)	61 (21.6)	22 (20.0)	9 (22.5)	6 (30.0)
2級	139 (21.9)	38 (16.9)	69 (24.5)	27 (24.5)	24 (60.0)	8 (40.0)
3級	74 (11.6)	13 (5.8)	25 (8.9)	7 (6.4)	0	0
格外	3 (0.4)	7 (3.1)	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	636 (100.0)	225 (100.0)	282 (100.0)	110 (100.0)	40 (100.0)	20 (100.0)